

幼児教育センターでは令和6年度より「スタートカリキュラム研修会」「アプローチカリキュラム研修会」の二つの研修会を保幼小相互乗り入れの連携研修会として再構築いたしました。大田区における「架け橋プログラム」をより推進していけるように、今後も幼児教育の現場へ、各種取り組みをお届けしていきたいと思ひます。

例年、幼児教育センター情報誌第3号は「支援活動特別号」として、幼児教育センターの事業の柱である「小学校支援活動」についてお知らせしております。保幼小連携交流の参考にぜひご一読ください。

～幼児教育センター支援活動とは～

【小学校支援活動の目的】

- ・ 幼稚園、保育園で保育経験のある職員が小学校を定期的に訪問し、1年生の支援を行いながら、保・幼・小の円滑な連携、接続、交流を推進するための調査研究活動を実施する。また、施設間の情報交換を推進する。
- ・ 小学校での支援を通して、支援学校地域の幼児教育施設との連携・接続・交流活動をコーディネートする。

【支援の概要】

(令和6年度実績)

- ・ 支援拠点校5校(小学校支援担当3名)
- ・ 1校につき週1日 1学年登校時～下校

【具体的内容】

- ・ 1年生の着替え・トイレ・給食・健診等の支援および、クラス担任の指示のもと授業準備、片付けや学習支援
- ・ 小学校生活になじめない児童の実態把握および支援
- ・ 小学校行事、地域交流活動の手配、調整や支援
- ・ 読み聞かせ、集団遊び、などの支援

小学校支援を通じた調査と研究

支援を担当しているのは幼稚園や保育園で保育経験のある所員です。小学校では登校してくるこどもたちを迎え、朝の支度や朝の会、学習補助、給食当番の補助などを行っています。昼休みにはこどもたちと一緒に、折り紙や鬼ごっこを楽しむこともあります。実際に1年生の生活全般にかかわることで、保育者としての視点からこどもたちを観察、援助し、クラスの担任と情報交換をします。

また、クラス担任の取り組みやクラス運営、カリキュラムなども調査します。時には担任とクラス運営について意見交換をすることもあります。特に入学当初は「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について、幼児教育的な視点から伝えています。担任以外にも、校長、副校長、サポートルームの担当者や養護教員、栄養士等とも、小学校の様子や仕組み、こどもの育ちについて、就学に関する課題などを情報交換しています。

そうして観察、調査した小学校の現実とこどもたちの姿を、幼児教育、保育の現場に伝えることも大切な取り組みです。幼児教育センターでは「スタートカリキュラム研修会」「アプローチカリキュラム研修会」「保幼小連携合同研修会」等、保幼小の現場担当者、教員、保育者が一堂に会し、共同研究、意見交換などを行う研修会を主催しています。小学校支援は研修会の内容や運営にも生かされています。

保幼小連携交流コーディネート

幼児教育センターの所員は小学校現場に参加していることによって、保幼小連携交流のコーディネートも行っています。連携交流相手の情報提供や、実際に学校で行われる交流会への参加、幼児教育現場へ学校行事の情報提供なども行っています。